

編集後記

27号は、ほとんど一年遅れの発行となってしまったが、三篇のエッセイがそろった。「古池」は、前後に自作の句を配し、その間で芭蕉の名句を解説する、薄皮饅頭のような体裁をとった。餡子には、ほとんどオリジナリティはないが、多様な読みを感じ取ってもらえたら、と思う。「UAE 教育ミッション報告」には、現地に行かなければわからない国際交流の一面を教えられる。日本人は日本をあまり評価しない、という言葉思い出した。UAE から日本を見ることで日本の良いところが見えてくる。問題の核心が見えてくる。和田の視点は常に新鮮である。わたしたちの日常の、あらゆるレベルで、「なにごとかについて協議し、合意を得ようとするとき、たがいに、おのれの考えに絶えず批判的に対峙し、人の考えに謙虚に耳を傾けようとするところがまえ」があれば、世の中は大きく変わる可能性があると思う。騒然とした社会に生きるわたしたちに、「民主制と原罪」は、民主制の原点に立ち返ることを教えてくれる。原罪を念頭に人間存在をどう考えるべきかを教えてくれる。問い続けることを忘れずに、次号は、なるべく早い時期に公開できるようにしましょう。<<>